

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第 4 号

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会議	文書番号	上富子育 第 855 号
		決裁期日	平成 28 年 3 月 8 日
名 称	平成 27 年度 第 2 回 上富良野町子ども・子育て会議		
日 時	平成 28 年 3 月 3 日 (木) 13 : 30 ~ 15 : 00		
場 所	上富良野町保健福祉総合センター 2 階研修室		
出席者	子ども・子育て会議委員 13 人(別紙名簿のとおり) 保健福祉課長 北川、健康づくり担当課長 杉原 子どもセンター施設長 山田、子育て支援班 安井、吉河		
内 容	<p>1 開会 北川課長司会進行</p> <p>・町長あいさつ 委員改選後初めての会議にあたり、町長よりあいさつ 悪天候の中出席いただき、また日ごろの町政運営への協力に感謝する 少子化が進む中で、子育て支援は全国的な課題となっている。 本町においても子どもがすくすくと育つ環境は大きな課題 子育ての最前線で活躍される皆さんにご提言をお願いしたい。 2 年間よろしくをお願いしたい。</p> <p>・委員自己紹介 委員一人ずつ自己紹介 引き続き事務局職員自己紹介</p> <p>・欠席委員の報告 民生児童委員協議会 主任児童委員 高木香代子委員 上富良野高田幼稚園 園長 増田修一委員</p> <p>・委員長及び副委員長選任 初対面の委員も多いので、事務局案を提案する。 委員長に北海道科学大学教授の山本八千代さん 副委員長に上富良野小学校長 森将人さん 【委員承認の拍手】 以降、議事については、山本委員長の進行で進める。</p>		

2 議事

【委員長】 1 番目の議題「認定こども園への移行の状況について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】 当初の事業計画においては、3 施設が平成 29 年度に認定こども園に移行する計画となっていたが、運営の見通しができたため、前回の会議で計画の見直しを行い、平成 28 年度から認定こども園に移行する準備を進めてきた。

・わかば中央保育園（現中央保育所）…2/29 認可通知

・わかば愛育園…2/29 認可通知

・上富良野高田幼稚園……10/28 認可申請、現在施設整備工事中

既に北海道の社会福祉審議会の承認を受け、施設整備完了後認可の予定

【委員長】 認定こども園 3 園の移行の状況について報告があったが、質問等ないか。

特に質問がなければ、会議として了承

2 番目の議題「特定教育・保育施設の利用定員について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】 特定教育・保育施設の利用定員は、子ども・子育て会議の意見を聴いたうえ、北海道に協議する事項となっている。

認定こども園 3 施設と認可保育所 1 施設の平成 28 年度の利用定員について協議させていただく。

資料 1 により説明

事業計画における、平成 28 年度の教育・保育の見込み量と確保方策、各施設の認可定員については、ニーズ量を確保できる体制となっている。

平成 28 年度の認定状況については、町全体としては、4 月初日の利用児童数は認可定員の範囲内となっている。

施設ごとの申込み利用児童数は、一部で認可定員を超えているが、利用定員見直しが必要となる 120% の範囲内であり、町としては利用者の希望を優先して、入園できるよう対応したい。

平成 28 年度の各施設の利用定員については、定員超過が許容範囲であることから、認可定員をそのまま利用定員とするよう、北海道に協議したいと考えている。

【委員長】 特定教育・保育施設の利用定員の協議について、質問・意見はないか。

なければ、事務局の提案を承認として良いか。

【委員承認】

今、待機児童が大きな問題となっている中で、希望の園に入園できるというのは、すばらしい町だと感じる。

【事務局】 平成28年度の各施設利用定員については、これから認可を受ける施設も含め、認可定員数と同数で、北海道に協議を行う。

【委員長】 次に3番目の「地域子育て支援事業の推進状況について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】 地域子育て支援事業の推進状況については、事業の評価、計画の見直しも子ども・子育て会議の所掌事務となっている。

今年度は、計画初年度で、まだ評価の段階にない。1年目の実績については改めて会議で報告するが、28年度に向けての取組みと今後の検討課題について説明する。

・ 利用者支援事業について

計画では、支援窓口の数量目標は定めず、どの機関に相談しても必要な支援につながる体制づくりを目指すこととしている。

昨年、国では、「まち・ひと・しごと創生基本方針」において、妊娠期から子育て期に渡るワンストップ拠点として「子育て世代包括支援センター」の整備を図ることとした。

現在は、かみんの保健師・助産師が対応している母子保健型利用者支援事業と、子どもセンターで対応している基本型利用者支援事業が連携する形で、「子育て世代包括支援センター」の役割を担っている。

現在も、子どもセンターの職員が助産師とともに家庭訪問をしたり、乳幼児健診会場で支援を行っている。

平成28年度は、上富良野町でも子育て世代包括支援センターの役割を担うワンストップ拠点に向け、子どもセンターの資格職員をかみんに配置し、母子保健事業とさらに連携を強化して一体的に事業を実施する。

子育ての専門資格を持つ職員が、妊娠期から相談に応じ、赤ちゃん訪問、乳幼児健診を経て、子育てまで継続して支援する体制を目指す。

・ 一時預かり事業について

以前、この会議において、一時預かり事業の使いにくさ（3日前までの申し込みが必要、保育士が確保できないため利用できないなど）の意見をいただき、平成27年度からは各保育所で一時預かり専任の職員を配置し、前日までの申し込みで利用できるよう改善した。

平成28年度からは、認定こども園上富良野高田幼稚園でも事業を実施するので、利用施設が4か所に拡大するとともに、お母さんたちから短時間の利用について希望があり、1時間・2時間の利用料金を設定し、短時間利用に対応。

・ 児童館運営について

計画の中では、放課後の居場所について、子どもたちが多様な選択肢の中で、自主的に活動できる環境づくりを目指し、放課後子どもプランや児童館を運営することとしている。

児童館の利用人数は波があるが平成28年度の東児童館の減少が大きい。また東児童館の建物の老朽化の課題もある。放課後の特別支援、不登校児童生徒の居場所など新たな課題も見えてきている。

放課後クラブ事業の充実や近隣地域での類似事業の集約など、将来に向けての検討課題となっている。

放課後クラブ、放課後スクール、東児童館、西児童館に関する説明（別紙）

利用対象、利用時間など違いもあるので、サービスを低下させない形で、効率的な運営ができないか検討が必要。今後検証したうえで、皆さんのご意見をいただきたい。

【委員長】 事業の経過説明について、質問・意見ないか。

【寺岡委員】 一時預かり事業についてですが、ファミサポ事業の問い合わせがあり、「春休み期間に仕事があり、上の子どもは幼稚園の預かり事業を利用するが、下の子どもを預かってほしい。」との内容。長期間の利用なので、一時預かり事業の方が利用料が安いことを伝えると「施設には断られた。」との話だった。今の事務局の説明だと、利用可能と思う。どういう状況なのかわからないが、利用者は断られたと受け取っているのではないか。

【委員長】 事務局の説明は平成28年度の事業で、今のお話は3月のことですね。

【事務局】 平成28年度の変更点は、上富良野高田幼稚園が増えること、1時間・2時間の短時間利用ができることで、今年度も同様の事業を実施している。

同日に複数の申し込みがあった場合には断るケースが想定されるが、断るということはないと思う。利用者施設でどのようなやりとりがあったのか事情を確認したい。今回のケースの具体的な内容はわからないが、事業実施施設は複数あるので、状況を確認のうえ適切に対応したい。

【寺岡委員】 もし何かの事情で一時預かり事業を利用できないために、ファミサポを利用せざるを得ないケースだと、利用者負担額が高くなるので、助成策を検討いただけないか。

【委員長】 利用料はいくらか。

【寺岡委員】 30分350円なので、長時間利用の場合は一時預かり事業を紹介

【増田委員】 確認は必要と思うが、施設では必ず常勤で専任職員を配置して、3月31日まで開設しているのだから、受入れできないと答えることが考えられない。実際、今年度は利用が大きく伸びている。

【寺岡委員】 施設の対応と利用者の印象にずれ違いがあったことも考えられる。利用者とは話す機会があるので、状況を伝える。

【委員長】 話がストーリーに伝わらないこともあるかもしれないが、大事なことは必要なサービスが届くということ。ちょっとした行き違いで誤解を生み、このようなケースも起こるが、こういう会議で話し合わせ、関係者が協力して良いサポートが届けることが重要。

ほかに意見はないか。感じていることでも結構です。

【広瀬委員】 放課後の居場所について、放課後クラブとスクール、東児童館が近隣地域で実施しているということだが、利用する子どもは近いからということではなくそれぞれ理由があって利用している。単に実施場所が近郊しているから事業を集約するというのではなく、事業の充実を考えてもらえるありがたい。

【委員長】 独自のカラーということも、子どもの居場所づくりとしてはそのような視点も大事ですが、施設の老朽化は差し迫っているのか。

【事務局】 すぐにどうということではないが、今後、長く使用することを考えると、計画的に対応が必要なので、方向付けをしてゆかなければ、施設の維持管理の計画もできない。

広瀬委員が言うように、子どもたちも場所により活動内容が違ふ。子どもたちが多様な選択をできる環境とともに、行政としては効率性も求められる。

将来に向かって十分論議したいと考えている。

【上村委員】 事業が多岐にわたり充実していると感じ、ありがたく思う。

放課後の居場所づくりについて、行政として効率性が求められることも理解できるが、せっかく特色をもって活動できる場所となっているものを統合するのは残念に思う。施設の老朽化などによって、事業の見直しを検討しなければならないとしても、子を持つ親としては、子どもにとってどうなのかという基準で考えてほしい。

近年、放課後クラブ・スクール事業の充実とともに利用者の理解も高まってきた。逆に、昔からある児童館の理解が薄れているのではないか。児童館の役割を広く周知するとともに、小学生だけでなく中高生を含め利用を促進するなど、運営を維持していただけるよう検討してほしい。

【委員長】 効率性というお金の問題と、子どもたちに豊かな子育て環境を保障するという問題です。安易にリストラすることのないよう、広く町民の意見を参集し、慎重に検討する必要があると感じる。

【事務局】 児童館の運営については、課題はあるものの、来年どうするかといった差し迫った課題ではない。児童館の運営方法は比較的制約がなく柔軟な検討ができる。また、他の事業との組み合わせなども含め、町全体で検討する必要があるため、皆さんのご意見を伺いながら検討してゆきたい。

【委員長】 児童館の中身とコストの問題。子どもだけでなくみんなが利用することによって様々な活動ができるということを考えると町全体の課題として考えてゆくことが大事だと感じる。

ほかに、何でも構わないので意見等ないか。

【高松委員】 今の子どもは外で遊ぶ機会が少ないと感じる。近所でもあまり見かけない。自分が子どものころはもっと外で遊んでいた。冬だとソリスベリなどができる場所があるといい。

【委員長】 屋外の遊び場所についての意見ですが、校長先生いかがでしょうか。

【副委員長】 上富良野小学校のグラウンドに築山がある。夏はグラウンドで野球やサッカーなどをしている様子を良く見かけるが、初めての冬を越すか外で遊ぶ児童は少ないと感じる。

【委員長】 北海道の子どもは体力が低いという統計もあり、子どもの外遊びは全国的な課題にもなっている。札幌では、日光に当たらないため「くる病」になる子がいる。

【事務局】 児童館にも雪山があつて、ソリスベリやチューブすべりができる。就学前の子どもも保護者同伴で利用できる。

【委員長】 ほかに質問意見等ないか。

【北村委員】 西児童館にしか行ったことがないが、2階の会議室に子ども向けのボールプールなどのおもちゃがあつて、利用しているが、平日の午前中しか利用できないのはなぜか。

【事務局】 地域の集会施設である泉栄防災センターで、西児童館を運営したり、2階会議室を子育てサロンとして開放するなど、施設の有効利用を図っており、地域の老人会や自治会活動でも利用している。空いている時間帯に利用していただくことは可能であるが、様々な活動で利用していただけるよう、全体のバランスの中で、サロンとして開放する時間帯を平日の午前中として設定している。

【北村委員】 以前、幼稚園が午前保育の日に午後に遊びに行くと「午後は使えません」と言うことだった。おもちゃも良いし、午後も開放してもらえると遊び場所の選択肢が広がる。

【事務局】 地域住民会の利用もあるので、開放する時間については検討したいが、通常の施設利用として、使用申請により利用することもできる。育児サークルなどで、特定の曜日の午後の時間帯に定期利用することも可能。

【委員長】 ほかに質問、意見等がなければ会議を終了。

上富良野町の子どもたちが良い環境で育つことができるよう、みんなで考えてゆきたい。2年間皆様に頑張りたいと思う。今後ともよろしく願います。

4 閉会